大分合同新聞
ワークシート

年　　組　　氏名

全国学テ 県内結果

小6が8位に上昇 中3は38位に後退

県教委「授業改善図る」

文部科学省は31日、小学6年と中学3年を対象にした2023年度全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）の結果を公表した。文科省のデータを基にした都道府県別の平均正答率で、大分県は小学校が2教科とも全国平均を上回る一方、中学校は全3教科で下回った。総合順位は小学校が8位タイ（前年度13位）。中学校が38位タイ（同18位）で、30位台に下がるのは16年度以来となった。（20面に関連記事）

九州・沖縄8県では、小学校が1位、中学校が福岡、鹿児島に次いで3位タイだった。

大分県の正答率は、小6の国語が69%で、全国平均より2ポイント高かった。算数は64%で1ポイント上回った。

中3は国語が69%で1ポイント及ばず、数学は49%で2ポイント下回った。英語は41%にとどまり、全国と比べ5ポイント低かった。

県教委義務教育課の小野勇一課長(53)は「中3の国語と数学は、あと1問正答すれば全国に並んだ。しっかり分析して弱点を把握したい。英語は課題があると考えており、市町村と連携して授業の改善を図っていく」と話した。

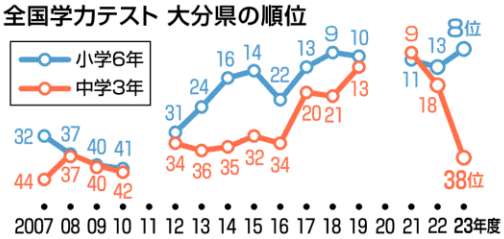
教科正答率を合計した総合順位は、小中とも石川、福井両県や東京都が上位だった。

テストは4月18日、全国一斉にあった。基本となる国語と算数・数学の2教科に加え、中3は4年ぶりに英語を実施した。県内の公立は小学校247校の89、中学校118校の46人、8588人が挑んだ。（江藤伸彰）

メモ

文部科学省は各都道府県の正答率について、「数値による単純な比較は序列化や過度な競争を助長する」として、2016年度から小数点以下1位を四捨五入した整数値で公表している。順位は本紙が独自に集計した。小数点以下の数値は考慮していない。正答率の比較は全国平均を四捨五入による整数値に置き換えて計算した。いずれも公立校のデータに基づく。

全国学力テスト 大分県の順位



※11年度は東日本大震災、20年度は新型コロナウイルスの影響で中止。10、12年度は全員参加ではなく抽出調査のため参考値

大分合同新聞 2023年8月1日(火) 朝刊 1面

©大分合同新聞社　教育目的以外の無断転載・複製および頒布は禁止します。

大分合同新聞
ワークシート

年　　組　　氏名

中3英語 大幅ダウン

正答率55%から41%に

全国学力テスト

31日に公表された全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）の結果で、県内の中3は3教科全てで全国平均を下回り、学力の改善傾向にストップがかかった。2019年度以来の実施となった英語は全国下位だった。県教委は今後詳しい分析をして課題を洗い出し、学力向上の施策に反映させる。

大分県は21年以降、小中共に全国並みか平均を上回る正答率を残してきた。

小学校は今回、2教科ともトップクラスだった。国に先駆けて19年度に教科担任制を導入し、当初の9校から本年度は32校に増えた。県教委は、専門性の高い教員の指導が好成績につながったとみている。

中学でも17年度から、県教委の指導主事が県内全ての公立校を巡回・指導し、数学の授業を充実させてきたという。22年度は数学が3年ぶりに全国平均を上回り、国語と理科でも全国並みの正答率だった。今回は国、数、英の3教科とも振るわなかった。

英語は正答率41%で、前回（19年度）の55%から大きく下がった。県教委は「文法から言語の使用が中心になった学習指導要領への対応や、20年度に教科化した小学校と中学校との連携に課題があると考えられる」と分析する。

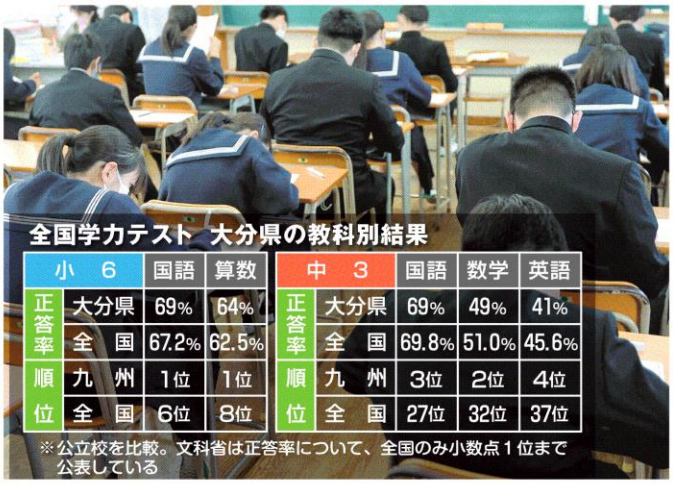
英語の授業改善を図ろうと、県教委は本年度、指導教諭や県教委の指導主事らによる指導力向上会議を設けた。授業の仕方を示した動画を順次作成しており、教員の参考にしてもらう。

今秋には中1を対象に民間テストの導入を予定している。小学校で習った内容を生かせているかどうかや、「話す」「読む」「聞く」「書く」のどこに弱点があるかを把握する狙い。

県教委の桐野潤義務教育課長補佐(51)は「新型コロナウイルス禍で会話の授業がしにくく、教員の研修も思うようにできなかった面がある。中3はあと半年間で力を伸ばせるようにしたい」と説明した。

（江藤伸彰）

メモ　英語のテストは2019年度に初めて導入された。12年度に始まった理科と同様、3年おきに実施する予定だった。新型コロナウイルス禍で20年度のテストがなくなった影響で、今回は4年ぶりとなった。



全国学力テストに挑む中学3年生＝4月、大分市皆春の鶴崎中

全国学力テスト　大分県の教科別結果

小6		国語	算数
正答率	大分県	69%	64%
	全国	67.2%	62.5%
順位	九州	1位	1位
	全国	6位	8位

中3		国語	数学	英語
正答率	大分県	69%	49%	41%
	全国	69.8%	51.0%	45.6%
順位	九州	3位	2位	4位
	全国	27位	32位	37位

※公立校を比較。文科省は正答率について、全国のみ小数点1位まで公表している

小5中2 全国上回る

県学力テスト 全教科・区分で

県教委は31日、小5と中2を対象にした2023年度県学力定着状況調査（県学力テスト）の結果も公表した。小学校は11年連続、中学校は5年連続で全教科・区分とも全国平均（偏差値50）を上回った。

小5は国語、算数、理科の3教科、中2は国語、数学、理科、英語、社会の5教科をそれぞれ調べた。いずれの科目も基礎的な「知識」と、その「活用」を問う内容を出題した。

前年度の偏差値と比べ、小5は国語、算数と理科の知識の計5区分で0・2～1・0ポイント下がった。理科の活用は横ばい。中2は8区分で0・1～0・7ポイントそれぞれ上昇した。数学の知識が0・3ポイント、理科の活用が0・9ポイントそれぞれ下回った。

偏差値34以下は低学力層で、標準的な割合は受験者の7%とされる。小5の国語、算数はそれぞれ6%だったが、理科は8%で基準を上回った。中2は4教科で5～7%、英語は2%で昨年度（8%）から大幅に改善した。

県教委義務教育課は「小学校の理科を中心に低学力層の底上げを図る必要がある。結果を詳細に分析し、施策や事業改善の充実を図る」と述べた。

（山口真由）

県学力テストの結果（数字は偏差値）

	教科		2022年度	23年度
小5	国語	知識	51.4	51.2 ↘
		活用	51.9	51.3 ↘
	算数	知識	53.0	52.0 ↘
		活用	52.5	52.0 ↘
	理科	知識	51.5	50.5 ↘
		活用	51.0	51.0 →
中2	国語	知識	51.6	52.1 ↗
		活用	51.5	51.8 ↗
	数学	知識	51.7	51.4 ↘
		活用	50.6	50.9 ↗
	理科	知識	51.1	51.4 ↗
		活用	51.1	50.2 ↘
	英語	知識	50.4	50.9 ↗
		活用	50.3	51.0 ↗
	社会	知識	50.9	51.5 ↗
		活用	50.3	50.4 ↗

メモ　県学テは毎年4月に実施。県内の国公立・私立校が対象で、小5は8992人（250校）、中2は8716人（121校）がそれぞれ受験した。同じ内容で実施した他県の結果と合わせ全国平均を出している。2020年度の結果は新型コロナウイルス感染拡大で実施校が少なかったため参考値となっている。結果の詳細と成績が良かった学校は9月に県教委のホームページで発表する。

大分合同新聞 2023年8月1日(火) 朝刊 20面

©大分合同新聞社　教育目的以外の無断転載・複製および頒布は禁止します。

大分合同新聞
ワークシート

年　　組　　氏名

〔問①〕小学校が2教科ともトップクラスだった要因を記事から探そう。

〔問②〕中学校の英語の正答率が大きく下がったことで考えられる課題を、記事から探そう。

〔問③〕学力向上のための方策を考え、話し合ってみよう。

©大分合同新聞社　教育目的以外の無断転載・複製および頒布は禁止します。